



ドミトリー

◀2階にはドミトリーを用意。壁や床は小学校時代のままなので、林間学校のような気分になる



職員室

◀職員室も4人部屋。ここに水回りを新設している



外観

◀外観は外壁塗装を施した程度にとどめ、小学校の雰囲気を残している



自転車ショップ



校長室

◀校長室をリノベした4人部屋。真ん中にあるのが「ライフコア」で、配管を上することで自由なレイアウトを実現する



ユクサおおすみ海の学校

昨年7月、鹿児島県鹿屋市にある廃校が体験型宿泊施設に生まれ変わった。ブルースタジオ（東京都中野区）と大隅家守舎（鹿児島県鹿屋市）が企画し、ブルースタジオとプラスディー設計室（鹿児島県鹿屋市）が建築設計・監理した「ユクサおおすみ海の学校」だ。昔ながらの床や机を残し、校長室や教室に宿泊できるようになっている。体育館入り口には自転車ショップも併設された。

Katasudde
川島康文代表取締役



廃校が体験型宿泊施設に 校長室や職員室に泊まれる

床はそのまま、中身を進化
「ユクサおおすみ海の学校」は、6年前に閉校した「鹿屋市立菅原小学校」をベースに新設された体験型宿泊施設。

▲自転車ショップはプロ顔負けの商品が勢ぞろい。体育館入り口ということ忘れさせるほどだ



▲クラウドファンディングで資金を調達して新設した。BBQなどが実施できる

「コンセプトは『子供たちのために、子供たちの大人たちのために』。利用者は少人数から団体まで、少しずつ増えています。大隅半島の魅力を伝える拠点となるよう、集客とサービスの充実に努めます」

このプロジェクトに際し大隅家守舎の4人とブルースタジオ3人で、Katasuddeを創業。同社がリノベ費用を負担し、運営を行う。鹿屋市は基本性能回復工事を負担、賃料は鹿屋市に支払う。補助金は使

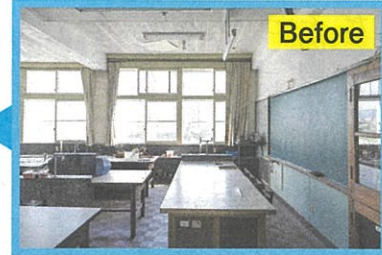


▲食堂は理科室、理科準備室をリノベした。机も当時のものがそのまま置かれている

テナントは全3店舗。旧給食室にはチョコレート工場が入り、販売も行う。かつての音楽室には、ものづくり体験の工房が入る。体育館には、自転車ショップ「鹿児島Fun Ride」(ファンライド)と自転車トレニング施設が入っている。体育館入り口はプチ増築し、ファンライドが塗装

1階の校長室と職員室は、共に1〜4人部屋。トイレは既存のものを利用し、木目調ドアとシャワー室を新設した。2階は、ドミトリ2室と大部屋5室に分かれている。ドミトリ部分は教室に間仕切り壁を新

設し、分けした。大部屋は畳を設置し、1、2階合わせて最大で116人が宿泊可能だ。宿泊料金は、ドミトリで1泊3500円から、大部屋貸し切りで2万円になる。個室は6400円から。1階の食堂は元理科室で、床材は変えず配管を引き直した。食堂隣はかつての理科準備室。家具などはそのまま残している。外のウッドデッキは、クラウドファンディングにより新設した。1階下駄箱には、クラウドファンディング協力者の名前が金属マスキングで記録されている。



Before

1階の校長室と職員室は、共に1〜4人部屋。トイレは既存のものを利用し、木目調ドアとシャワー室を新設した。2階は、ドミトリ2室と大部屋5室に分かれている。ドミトリ部分は教室に間仕切り壁を新

この施設は「国土交通省民間都市再生整備事業計画認定プロジェクト」として、民間都市推進開発機構(東京都江東区)から出資を受けた。ブルースタジオの大島芳彦専務取締役が、リノベーションスクールなどで何回か鹿屋市で講演しており、さらに大地山博社長の生まれ故郷だったことがきっかけで実現。「ブルースタジオとして、鹿屋市で地域活性化事業をしたい意向があり、旧菅原小学校を紹介したら意気投合し一緒にやることになりました」(川島

を施した。「鹿屋体育大 学自転車競技部がここを練習拠点としています。このショップのオーナーは、その専属メカニックも務めています」(Katasudde・川島康文代表取締役) 教室入り口のドアの大半はそのまま、できるだけ小学校らしさを残している。

子供も大人も楽しめる場に